

<附属校連携プログラムを通して>

報告者：中学3年D組 小澤陸人

もうすぐ私達は高校生になります。そろそろ自分の将来について考えなければならない時期になってきました。特に大学のことを案ずることが多く、どんな大学を選べば良いのかさっぱりわからず困っていました。しかし今回の附属校連携プログラムに参加して進路の目的が立ち明確な目標を決めることが出来ました。それでは、当日の詳細を書いていきます。

附属校連携プログラムでは中央大学の学生の方々にお越しいただき、大学に関わる様々な説明をしていただきました。始めに、大学生による中央大学やそもそも「大学」とは何かについて、パワーポイントの資料を用いた口頭説明が行われました。大学とは自分が特に学びたい・探求したいものを重点的に扱う学問の場であることを知りました。また、大学では自分で受ける講義や時間割を決められると知り、驚くと共に少し羨ましいと思いました。そして、自分が知りたかった「学部」・「サークル活動」・「部活動」の概要やそれぞれの違いについて、中央大学にある学部・サークル活動・部活動について教えていただきました。まずサークル活動と部活動に違いがあることに驚き、どれも中学より種類が豊富で羨ましいと思いました。



説明の合間には中央大学の3つのキャンパスの動画を視聴しました。キャンパスの広さや清潔さ・豊富な設備を見て、想像を遙かに上回っており目を見張りました。個人的には食堂の多さ、食品の種類豊富さ、大学生協の商品の多さに惹かれました。インターネットの情報を閲覧するより圧倒的にわかりやすく、正確な情報が得られ、素晴らしい映像だと思いました。この映像を見てより大学生活が楽しみになり目標に向けて努力しようという気持ちになりました。

その後、緊張をときほぐし、大学生の皆さんや、ともに生活している仲間とより仲を深めることを目的として「アイスブレイク」が行われました。「アイスブレイク」とは自己紹介を

したり簡単なゲームをしたりして集まった人を和ませ、コミュニティをとりやすい雰囲気を作り、そこに集まった目的の達成に積極的に関わってもらえるよう働きかける技術のことです。今回はゲームを行いました。最初はお題に沿って自分の好きな物やシチュエーションに合ったアイテムをプリントに書き、書いた答えがグループ内のメンバーと何人一致したかをポイントとしました。次に最初と同じようにお題に沿ってプリントに自分の答えを書き、誰も回答が一致しない or 3人以上の人と一致したらポイントとなるというルールで行いました。思いのほか楽しむことができ、大学生の皆さんとも打ち解けることができたので、アイスブレイクは大成功だったと思いました。



アイスブレイクで大学生と打ち解け合った後には大学生へ質問する時間が設けられました。この時間は私達が大学について気になっていることを現役の大学生の皆さんに聞くことができ、貴重な時間でした。「いつ進路を決めたのか?」・「大学生活の良いところは?」・「どのサークル、部活に入っているか?」という質問が多く挙がっていました。学費やテスト・設備関連の質問もかなり多かったです。質問に対する答えに意外なものが多く、勉学系の内容によっては大学生と自分達のしていることのレベルがかけ離れていて実力の差を痛感することがありました。



今回の附属校連携プログラムを通して私達は大学について様々なことを学ぶことが出来ました。私達は大学という遠い存在の概要や魅力を知り、少しは身近に感じる事ができたと思います。また、各々が学んだことを活かし、進路を決め目標をたてる事が出来たと思います。大学生の皆さんにはこのような貴重な時間をいただき、とても感謝しています。附属校連携プログラムで学んだことを忘れず、これから自分の将来に向けて日々努力を続けていこうと意を決しました。